

2



第2章 景観形成の目標

- 1．福井らしい景観とは
- 2．景観形成の基本理念
- 3．景観形成の目標

1. 福井らしい景観とは

景観に対する思い入れは人それぞれであり、「福井らしさ」を一言で表現することは困難ですが、福井には、主に次のような特徴が見られます。

心象として残る美しい自然や地理的特性、風土、及びこれらによってイメージされる色

- ・福井は、日本のほぼ中央に位置し、日本らしい四季の変化を感じることができます。
- ・福井は、まちの「目印」となる足羽三山を市内のほぼどこからでも眺望することができます。
- ・福井は、東西を緑豊かな山並みに囲われ、生活の近くに自然の潤いを感じることができます。
- ・福井は、米どころとして栄えた広大な農地があり、営みを通じて四季を感じることができます。
- ・福井は、白砂青松や奇岩奇勝の海岸線があり、日本海に沈む夕日を楽しむことができます。
- ・福井は、まちなかを横断する河川や用水が数多くあり、市民の生活に潤いを与えています。
- ・福井は、北陸の都市の中でも積雪が多く、この時期は、遠くに白山連峰を望むことができます。
また、海岸線では、白い波の華やエメラルドグリーンの波打ち際を楽しむことができます。
- ・福井は、春は桜、夏はアジサイ、秋はコスモス、冬は水仙のように、一年中、四季を通して花を楽しむことができます。

人々の生活と一体となって引き継がれてきた地域独自の歴史と文化

- ・福井は、豊かな自然や重厚な歴史に育まれた独自の祭りや文化が根付いています。
- ・福井は、昔からの街道筋に、当時を偲ばせる家並みが今でも人々の生活に息づいています。
- ・福井は、古墳や城下町などの史跡が数多く、今でも地域の人々の生活と密接に関係しています。
- ・福井は、足羽山から採掘される笏谷石を昔から建物や塀などに使用しており、今でも人々の生活の中で親しまれています。
- ・福井は、海・山・川・田園の豊かな自然の恵みに支えられた独自の食文化が根付いています。

整備された都市空間などが生み出す住みよさや賑やかさ

- ・福井は、全国の都市の中で「住みよさランキング」が総合1位であり、心地よい暮らしを送ることができます。
- ・福井は、福井県の県都として様々な都市の機能が集中し、賑わいがあります。
- ・福井は、道路網が碁盤目状に整備され、街の方角がわかりやすく、朝日や夕日を通りからきれいに見ることができます。
- ・福井は、まちなかを路面電車が走り、その姿は市民の心象風景にもなっています。

気質や人情といった市民性

- ・福井は、幾多の災害等乗り越えた不屈の精神と、常に新しいことへ自ら挑戦する進取の気質を持ち合わせた市民性を有しています。
- ・福井は、真宗王国でもあり、古くから信仰心が厚い市民性を有しています。

このように、福井を表現する言葉や要素は豊富にあります。それぞれが一つのものとして存在しているのではなく、いくつもの言葉や要素がお互いに重なり合っ、あるいは織りなすことによって、「らしさ」と呼べるものになっています。

あるものは「静」としての普遍性があり、あるものは「動」としての躍動感を感じることができます。そして、地域（場面）ごとに異なった景観（物語性）が互いに織りなして、まるで「映画のような景観」を感じることができます。

そこで、本計画では、「福井らしい景観」を次のように定義します。

福井らしい景観とは…

『美しい自然に歴史・文化が溶け込んでいる、日本の原風景が感じられる景観』

福井らしい景観を形成するとは…

『地域固有の自然や歴史・文化を守り、未来に引き継ぐこと』

そして、

『自然や歴史・文化と都市が融合するようにまちをデザインすること』

福井らしい景観を実感できる場所 = 「福井都心地区」

JR 福井駅を玄関口とした、福井の中心である「都心地区」は、福井城址や養浩館庭園、まちの目印である足羽山や足羽川をはじめとする景観資源が幾重にも織りなしている場所であり、もっとも福井らしさを実感できる場所と言えます。



2. 景観形成の基本理念

戦災・震災による大災害から不屈の精神で立ち上がり、高い社会基盤を備えたまちを創り上げてきた様子は、まさにフェニックス（不死鳥）と称するにふさわしいものでした。

この社会基盤整備が一応の成果を遂げた1989年（平成元年）これまでの利益追求・効率化重視の都市整備に対して、都市の個性化や都市の潤いを重視した景観整備の推進を目的に「福井市都市景観基本計画・1989」を策定しました。これは、福井市が四季の変化に恵まれた美しい山、大地、川、海に囲まれた山紫水明の地であることを前提として認識しつつ、都市的発展を支えてきた市街地の再生を図ろうとするものでした。

都市化社会から成熟社会へと転換した現在、20世紀後半の高度経済成長期が生んだいわゆる“負の遺産”を見直し、国土が本来もっていた「日本の美」を取り戻そうとする動きが全国的に広まっています。

福井市においては、市町村合併により景観要素がさらに魅力的になり、また、JR福井駅周辺の整備や北陸新幹線福井駅開業に向けた整備が始まるなど、今後の景観行政をステップアップする上で大きな契機を迎えています。

これからの景観行政にあっては、福井市を取り囲む自然や歴史・文化を再評価・再認識するとともに、まちの中に上手く取り込み、「福井らしい」と全国に認められるものでなければなりません。そのためには、行政だけでなく、市民・団体、事業者が一緒になって創り、育んでいく必要があります。

そこで、今後の福井市の景観形成における基本理念として、次の3つを掲げます。

（1）福井らしい景観を守る

福井市には、コシヒカリのふるさとでもある広大な田園、空と大地を分かち鮮やかなコントラストをみせる緑豊かな山並み、景観構造的にも精神的にもシンボルとして親しまれている足羽三山、清新な流れを運び続ける足羽川などの河川、さらに、日本海特有の奇岩奇勝と水仙が美しく融合した越前海岸など、市民の心象に焼きついている、日本の原風景ともいふべき美しい自然があります。

それらは、四季を通じて様々な色に変化し、見る人の心を楽しませてくれます。また、自然の営みとともに育まれてきた生活や文化、歴史が根付いています。

これらは全て、「福井らしい景観」の根幹をなすものであり、今後の景観形成にあっては、美しい自然を良好に保全し、未来に引き継いでいくことを基本とします。

また、このために、市街化の拡散を抑制し、必要な都市機能を効率よく配置したコンパクトな市街地を形成します。



(2) 世界に誇れる美しい福井を創る

2005 年をピークとした人口の減少や高齢社会の進展などに伴い、地域人口の確保や交流人口の獲得を目指した地域間競争が今後ますます激しさを増すものと予想されます。

この中で、福井としての個性が埋もれることなく輝き続け、全国や世界から多くの人々が訪れる魅力ある福井市を創造していくためには、「福井にしかないもの」、「福井らしい」と呼べるものをいかに見つけ出し、磨きをかけていくかが重要となります。

このため、福井固有の景観資源を市民共通の資産として共有し、併せてその周辺の景観を整備することでさらに磨きをかけ、国内や世界に誇れる美しい福井を創出していくことを基本とします。



(3) 市民とともに創り・育てる

福井市では、景観形成に市民が参画するための仕組みや制度を整え、意識啓発のための場を設けてきました。その結果、身近な清掃活動や花壇づくり、さらに、良好な景観デザインの検討に至るまで、様々な市民活動が行われています。

市民が愛着をもち、隅々まで行き届いた美しい福井を創り、良好に管理・育成していくためには、市民・団体、事業者の参画や主体的な取り組みが不可欠です。

今後の景観形成にあたっては、景観づくりの目標やイメージを市民・団体、事業者、行政が共有し、互いが連携・協働することにより、「福井らしい景観」を創り・育てていくことを基本とします。



3. 景観形成の目標

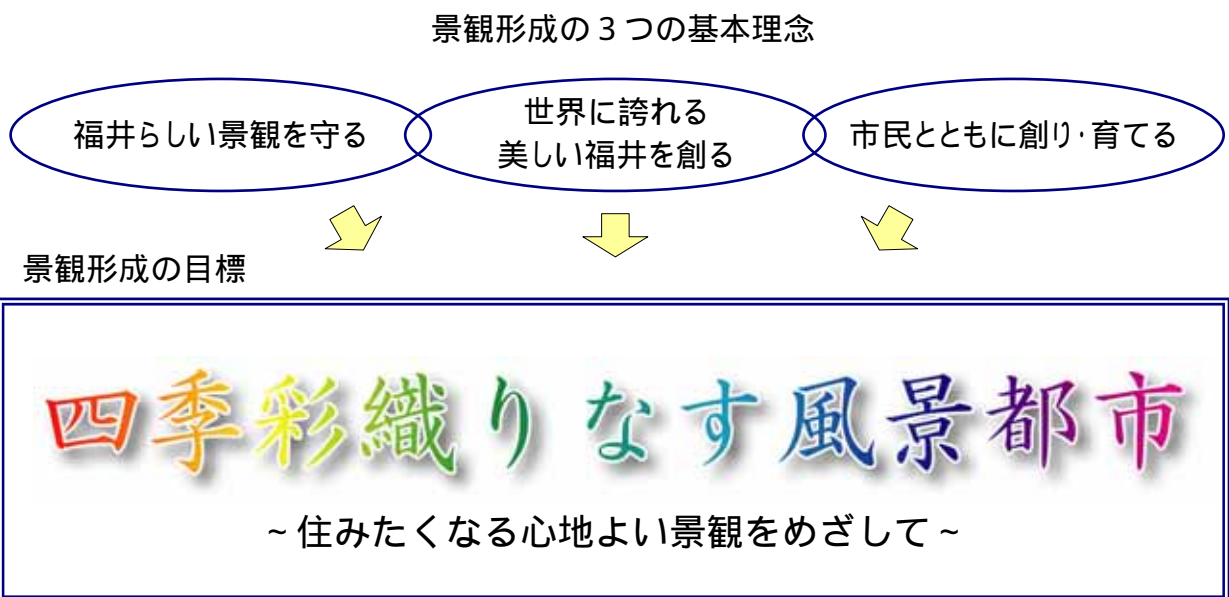
福井らしい景観を守るとは、市民の心象に焼きついている日本の原風景とも言うべき美しい自然及びこれらとともに育まれてきた生活や文化、歴史を良好に保全し、未来に引き継いでいくことです。

世界に誇れる美しい福井を創るとは、福井固有の景観資源を市民共通の資産として共有し、併せてその周辺の景観を整備することでさらに磨きをかけ、国内や世界に誇れる「福井らしい景観」を創出することです。

市民とともに創り・育てるとは、景観づくりの目標やイメージを市民・団体、事業者、行政が共有し、互いが連携・協働することにより、「福井らしい景観」を創り・育てていくことです。

このように、美しい「福井らしい景観」を守り、創造していくためには、人と自然、歴史、文化、そして「まち」との密接な関係と調和が保たれていなければなりません。

そこで、福井における景観形成の目標（将来像）を次のように定め、その実現に向けて市民・団体、事業者、行政が“協働”で取り組んでいきます。



福井には、日本の原風景とも言うべき美しい自然があり、日本らしい四季の変化を感じることができます。

また、先人たちが築き、育んできた福井固有の歴史や文化、生活や営み、そして「まち」の賑わいなどは、すべてこの美しい自然に溶け込み、「福井らしい景観」となっています。

人と自然、歴史、文化、そして「まち」との関係が、今後さらに、羽二重のように美しく織りなすことによって、人々の心にいつまでも、心象風景として「福井らしい景観」が記憶に残る、美しい都市を創造していきます。

そして、市民が誇りをもって、いつまでも住み続けたいと思うような、誰もが住んでみたいと思うような“心地よい”景観を形成していきます。